



沖縄県 平和学習センター

＜コーディネート事務局＞

NPO法人 自然体験学校

沖縄県島尻郡八重瀬町具志頭296番地

福ビル1階

電話 098-998-0330

Mail Okinawa@shizentaiken.com

沖縄県平和学習センター 設立趣旨

沖縄戦から80年が経過し、これまで沖縄の平和学習を支えてきた、戦争体験者のみならず、現役の平和ガイドの高齢化も進んでいます。

そうした背景の中、沖縄戦の歴史的教訓を風化させることなく、次世代へと正しく継承し続けることが、ますます重要になっています。

「沖縄県平和学習センター」は、沖縄戦を通して学んだ平和の尊さや人間の尊厳を広く社会に発信し続けることを目的に設立しました。

戦争で命を落とした20万人以上の戦没者に追悼の意を表し、その御霊を慰めるとともに、私たちが今日享受している平和のありがたさを再認識し、世界の恒久平和を祈念することを基本理念とします。

単に過去を学ぶ場としてだけでなく、安らぎと気づきを得られる空間として、また地域とともに育む平和学習の拠点としての役割も担っています。

同時に、地域における合意形成や継続的な運営体制の構築、既存資源の効果的な活用、安心・安全なプログラムの提供、さらにはガイドのスキル向上といった課題にも向き合い、改善を図っていきます。

このセンターは、構想から8年にわたる試行錯誤を経て、地域との連携のもと実現に至りました。沖縄戦の歴史と平和の重要性を次代に伝えるための拠点として、今後も社会に対して意義ある発信を続けていきます。

プログラム

- ① ガマ入壕体験
- ② 第一野戦病院壕と富盛の石彫大獅子のガイド
- ③ 平和講話
- ④ 平和劇
- ⑤ 戦跡ポイントガイド
- ⑥ バス同乗ガイド（南部戦跡）
- ⑦ ディスカッション
- ⑧ 寸劇ガイド
- ⑨ 琉球大学キャンパスツアー（沖縄戦、沖縄の歴史等）
- ⑩ バス同乗ガイド（沖縄戦上陸から終焉の地まで）
- ⑪ 上陸地点（読谷村のガイド）
- ⑫ 北部戦線（本部町のガイド）

体験学習

クラシンウジョウ壕、イリユージガマ（八重瀬町）



沖縄戦で使用されたガマに入壕し、当時の暗闇を体験します。ガイドによる沖縄戦の話を通じて、戦争の歴史を知り、これからの平和について考えます。当団体では、八重瀬町にある「クラシンウジョウ壕」、「イリユージガマ」の予約管理を行なっています。

期 間	通年可能 (年末年始・慰霊の日・旧盆・旧正月を除く。また地域行事が優先されます)
時 間	【3月～10月15日】9:00-18:00（最終開始時刻は17時） 【10月16日～2月】9:00-17:00（最終開始時刻は16時）
所要時間	60分
体験場所	クラシンウジョウ壕（八重瀬町内） イリユージガマ（八重瀬町内）
人 数	各ガマにつき80名程度（2クラスまで）
料 金 (税込み)	・2026年8月まで、 ガイド料：5,000円／1クラス 入壕料：300円／1人 ・2026年9月以降、 ガイド料：6,600円／1クラス 入壕料：330円／1人
備 考	・荒天時はバス車内にて講話に振替させていただきます。 ・小雨程度の場合は、雨具着用の上、実施となります。 ・お手洗いはございませんので、現地到着前にお済ませください。

■「ガマ」とは

「ガマ」とは、沖縄の方言で自然の洞窟や鍾乳洞を意味する言葉です。戦時中は住民の避難場所や日本軍の陣地・野戦病院としても使われました。

■フィールドの紹介

●クラシンウジョウ壕

1944年の夏頃に日本軍がクラシンウジョウ壕を接收し、人工的に掘り進め、自然壕に人口壕を継ぎ足して、陣地壕として構築されたガマです。戦死者はいなかったとされています。戦後から手付かずのままですが、汚れにくく、入りやすいガマです。

●イリユージガマ

米軍が沖縄本島に上陸する直前、1945年3月下旬に沖縄南部を襲った空襲の際に、周辺の住民が避難していたガマです。その後、日本軍の本部壕に使用され、沖縄戦末期には負傷兵と住民が混在していました。イリユージガマの内部は湿っていることが多く、道悪のため靴の底が汚れます。天候の影響を受けやすい面がございます。



クラシンウジョウ壕入口



イリユージガマ入口



体験学習

第一野戦病院壕と富盛の石彫大獅子ガイド（ガマに入らない体験）



歴史的にも貴重な戦跡となっている「富盛の石彫大獅子」や、白梅学徒隊が従軍していた「第24師団第一野戦病院壕跡」をガイドと巡ります。当時10代で学徒として従軍した女学生達の様子や戦争の悲惨さ、平和の尊さを学ぶことができる体験です。ご希望により、ガマなど周辺にある他の戦跡も併せてご案内することも可能です。

期 間	通年可能 (年末年始・慰霊の日・旧盆・旧正月を除く。また地域行事が優先されます)
時 間	9：00～17：00（要相談）
所要時間	60分
体験場所	富盛の石彫大獅子（八重瀬町内） 第24師団 第一野戦病院本部壕跡（八重瀬町内）
人 数	最大2クラスまで
料 金	1クラス（バス1台）につき15,000円（税別）
備 考	・ 荒天時はバス車内での講話のみとさせていただきます。 ・ 小雨程度の場合は、雨具着用の上、実施となります。 ・ 富盛の石彫大獅子は住宅街に位置しており、バスでの進入ができないため、近隣の公民館等にバスを停めて、現地まで徒歩移動の時間が含まれます。

■フィールドの紹介

●第一野戦病院壕（白梅学徒隊の壕）

沖縄県立第二高等女学校の4年生は、沖縄戦で「白梅学徒隊」として従軍しました。約3週間の看護教育の後、米軍の空襲と同時に46名が第一野戦病院壕に配属されました。500人程が収容可能な病院壕で約3ヶ月、学徒隊は手術の補助や患者の世話、水汲みなどを行いました。米軍が迫った6月4日に壕は閉鎖。現在は入口のみ見学することができます。

●富盛の石彫大獅子

1689年に火除け（火返し）として設置され、琉球王朝の「球陽」にも明記されている最古の村落獅子です。現在では沖縄県有形民俗文化財に指定され、戦禍を潜り抜けた獅子の体には無数の弾痕が残されています。現地では、石獅子のガイドを通して、沖縄の歴史と戦争の悲惨さを感じることが出来ます。



【第24師団第一野戦病院壕入り口（現在）】 【アメリカ軍に撮影された石彫大獅子の様子】





体験学習

平和講話【戦争経験者、継承者】※オンライン化



沖縄戦への理解を深めるための講話です。当団体では、戦争経験者または戦後生まれの継承者の講師を手配しております。沖縄戦の継承活動をされている方の声は、教科書やメディアでは知ることが出来ないものです。

講話を通じて「戦争」の悲惨さを知り「平和」について考えるきっかけを提供します。継承者の講師に関しては、オンラインでの講話もご相談可能です。

期 間	通年可能 (年末年始・慰霊の日・旧盆・旧正月を除く。また地域行事が優先されます)
時 間	【戦争経験者の講師】10:00-16:00 (最終開始時刻は15時) 【戦後生まれ継承者の講師】9:00-21:00 (最終開始時刻は20時)
所要時間	60分
体験場所	那覇以南の会場にてご手配をお願いしております。
人 数	会場による
料 金	【戦争経験者の講師】30,000円(税別) 【戦後生まれ継承者の講師】20,000円(税別) ※別途会場費 会場により交通費・駐車料のご負担をお願いする場合がございます。

① 平和講話（現地・対面）について

1団体に対して講師が1名付き、スクール形式またはシアター形式で実施します。話し手の言葉や思いを受ける機会となります。

【戦争経験者の講師】

幼少期に経験した沖縄戦についてお話をしています。
戦後から80年以上が経ち、沖縄戦を経験された方の講話は、貴重な体験となります。

【戦後生まれ、継承者の講師】

沖縄戦の事実に沿ったお話をしています。パワーポイントを用いて沖縄戦の始まり～終わりまでをわかりやすくご説明します。
会場にプロジェクター、スクリーンのご用意をお願いいたします。

実施後にお送りいただいたお手紙から内容を抜粋してご紹介します。

- ・先生のお話を聞き、改めて毎日を大切に生きようと思いました。
学んだ事を感想で終わらせるのではなく、家族や沖縄戦を知らない人に伝えて、繋げていきたいです。
- ・「戦争がなければ活躍できる。」「勇気を出せばどこまでもいける。」
実際に戦争を経験されたからこそその言葉は、私には強く響きました。

② 平和講話（オンライン）について

事前学習として、オンラインでの実施もご相談可能です。

所要時間：50分～60分(授業時間の1コマを想定)

費用：(継承者)一式30,000円(税別)

実施方法：Zoom ※有料アカウントまたは学校アカウントをご用意ください。

ミーティングホストは学校様または旅行会社様をお願いしております。



体験学習

演劇で学ぶ平和学習 ～白梅学徒隊から託されたもの～



沖縄戦時、白梅学徒隊として陸軍野戦病院に配置された中山きくさん、武村豊さんの証言をもとにつくられた、オリジナルの演劇を鑑賞していただきます。
ご希望により、観演後、劇団員との質疑応答も可能です。

期 間	通年可能 (年末年始・慰霊の日・旧盆・旧正月を除く。また地域行事が優先されます)
時 間	9:00～20:00 (要相談)
所要時間	劇のみ50分、質疑応答含め1時間
会 場	南部地区(那覇・浦添含む)周辺ホテルや公民館など
人 数	会場による
料 金	生徒200名以下 20万円(税別) 生徒201名以上 生徒1人につき1,000円(税別)
備 考	・会場をご用意下さい。実施の2時間前から舞台上でリハーサルを行います。 ・劇団員との質疑応答、贈呈式等ご希望の場合は事前にご相談ください。

戦後から80年が経過し、戦争の記憶や傷跡が薄れつつあります。沖縄戦で戦場に動員された21の学徒隊のひとつ「白梅学徒隊」の中山きくさん、武村豊さんの体験を後世に継承するため、講話ではなく演劇として沖縄戦を学んでいただきます。

■令和元年度沖縄県宜野湾市平和祈念事業で実施

宜野湾市内にある4つの中学校で、平和学習の時間に『白梅学徒隊から託されたもの』を鑑賞していただきました。終了後に実施したアンケートから、生徒の感想を抜粋してご紹介します。

- ・演劇で防空壕から出てきて大きな爆弾の音が聞こえた後に友人が亡くなってしまう場面がとても印象に残りました。当時の子供たちは、この大きな音を聞いていたんだなあと思うと胸が苦しくなりました。
- ・今から74年前に戦争があって戦争ではいろんな人が亡くなっていったり、今みたいにご飯があまり食べられないし、友達とも遊んだり勉強したりもできないと言っていたことが一番印象に残りました。



■会場のご手配について

- ・音響、照明設備の整った会場のご手配をお願いしております。
- ・初めて実施する会場においては、事前に見学をさせていただく場合がございます。
- ・当日は、準備、リハーサル、撤収作業の時間を要します。
会場は、開演の2時間前～劇終了後の1時間まで(計4時間)確保をお願いいたします。



体験学習

戦跡ポイントガイド



平和祈念公園内に点在する慰霊碑や記念碑をめぐりながら、沖縄戦の歴史と平和への願いにじっくりと触れることができるプログラムです。「平和の礎」「平和の丘」「島守の塔」「全学徒の碑」など、公園内の各ポイントには、戦争の記憶と深い物語が刻まれています。ただ見学するだけでは気づけない背景や物語に触れ、平和の大切さを深く感じる時間です。所要時間に応じて、訪問ポイントや内容は柔軟に調整可能です。

期 間	通年可能 (年末年始・慰霊の日・旧盆・旧正月を除く。また地域行事が優先されます)
時 間	9:00～17:00（要相談）
所要時間	50分～60分
会 場	平和祈念公園内（糸満市）
人 数	4クラスまで
料 金	1クラスにつき5,000円（税別）
備 考	・資料館内のガイドは実施しておりません。

■フィールドの紹介 ※ご案内するポイントは変更となる場合がございます

●平和の礎（いしじ）

「平和の礎」は、沖縄戦を含む太平洋戦争で亡くなった人々の名前を刻んだ慰霊碑です。国籍や軍人・民間人を問わず、約24万人の名前が出身地ごとに並びます。「敵味方を超えてすべての命を悼む」という沖縄独自の平和の願いが込められています。

●平和の丘

「平和の丘」は、平和祈念公園内にあるモニュメントで、慰霊と平和への祈りを象徴する場所です。モニュメントの下部は、沖縄の自然洞窟「ガマ」をイメージして設計されており、戦時中に多くの人々が避難し、あるいは命を落とした場所の記憶を象徴しています。

●全学徒隊の碑

「全学徒隊の碑」には、沖縄戦で動員され犠牲になった全21校の名前と学徒隊としての通称、当時の所在地図が刻まれています。

●島守の塔

島守の塔は、沖縄県知事・島田叡さん、警察部長・荒井退造さんをはじめ、沖縄戦の中で命を落とした県職員たちを慰霊するために建てられた記念碑。戦火が迫るなかでも、島田知事と荒井警察部長は最後まで県民とともに避難し、その命を守ろうと尽力しました。



体験学習

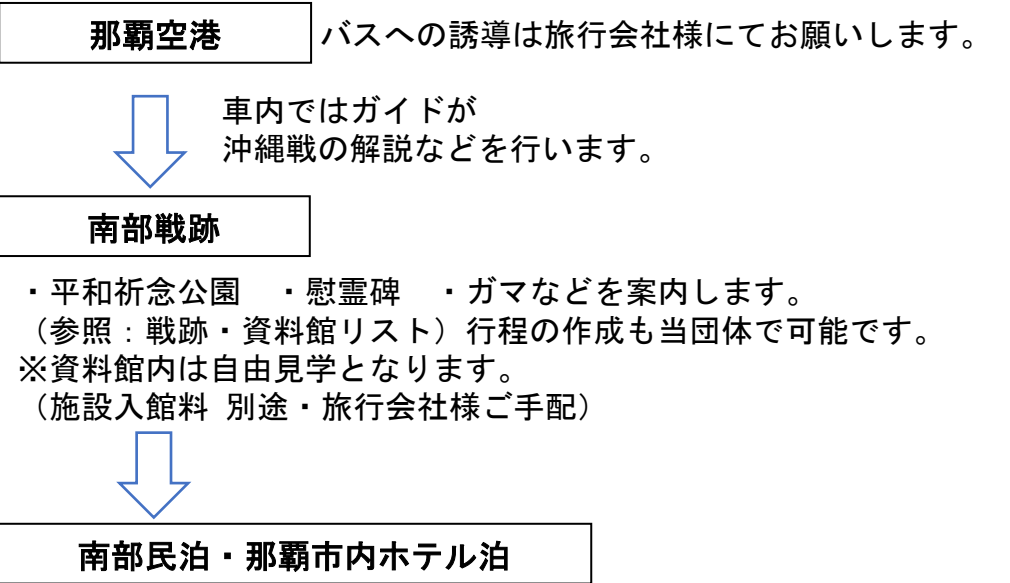
南部戦跡 ～平和ガイド同乗プラン～



沖縄戦の激戦区となった南部の地域には、数多くの戦跡が残されています。本プログラムでは、バス1台につき平和ガイドが1名同乗し、各ポイントで解説を行います。空港からガイドが同乗しますので、沖縄到着後すぐに平和学習をスタートし、移動の時間を有効に使うことができます。

期 間	通年可能 (年末年始・慰霊の日・旧盆・旧正月を除く。また地域行事が優先されます)
時 間	9:00～18:00 (要相談)
所要時間	半日程度
体験場所	那覇市以南
人 数	バス1台迄となります。(要相談)
料 金	ガイド1名につき、30,000円(税別)
備 考	・出発地点にガイドの車両を駐車しますので、駐車場所のご手配をお願いいたします。また、駐車料金が発生する場合は旅行会社様にてご負担をお願いしております。 ・ガイドの帰りのタクシー代(終了地点⇒出発地点)が別途発生する場合がございます。 ・本プログラムにガマの入壕は含んでおりません ・ひめゆり資料館、平和祈念資料館内のガイドは含んでおりません。

■モデルコース



■フィールドの紹介（抜粋）



ひめゆりの塔
ひめゆり学徒隊の慰霊碑。
陸軍病院第三外科が置かれた壕の跡に建つ。
同名の映画が有名になった。



白梅之塔
白梅学徒隊の生存者が野戦病院解散後に、退避してきた壕に建つ慰霊碑。学校関係者149人が合祀されている。



「南部に残る戦跡・平和学習施設の紹介①」

※戦跡によりバスの進入ができない箇所もございます。
※施設のご利用は各所へ直接お問合せください。



①ひめゆりの塔

ひめゆり学徒隊の慰霊碑。
陸軍病院第三外科が置かれた壕の跡に立つ。
同名の映画が有名になった。



②平和の礎

沖縄戦で亡くなった全ての方の氏名を刻んだ
記念碑。終戦50周年を記念して1995年
6月23日に建設。



③白梅之塔

白梅学徒隊の生存者が野戦病院解散後に、退避
してきた壕に立つ慰霊碑。
学校関係者149人が合祀されている。



④第24第一野戦病院本部壕

白梅学徒隊が、米軍の空襲と艦砲射撃に追われる
ようにして配属される。次々と負傷者が運び込ま
れた。



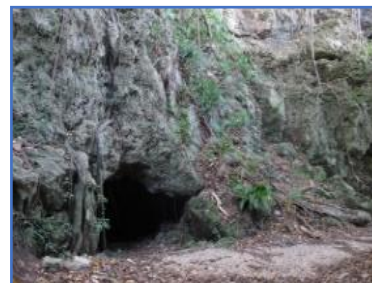
⑤富盛の石彫大獅子

日本軍が重要な防衛拠点としていた地点。体には
無数の弾跡がある。
県指定有形民俗文化財で第一号の村落獅子（シー
サー）。



⑥具志頭城跡公園

広々とした公園内は戦跡公園として整備されており、
公園内には土佐の塔、甲斐の塔、具志頭村の慰霊碑
がある。



⑦クラシンウジョウ壕

沖縄戦当時、日本軍の陣地壕として使用された
壕。一時は火薬庫として使われた。ここで戦死
者は出ていない。
※別途 入壕体験可

「南部に残る戦跡・平和学習施設の紹介②」

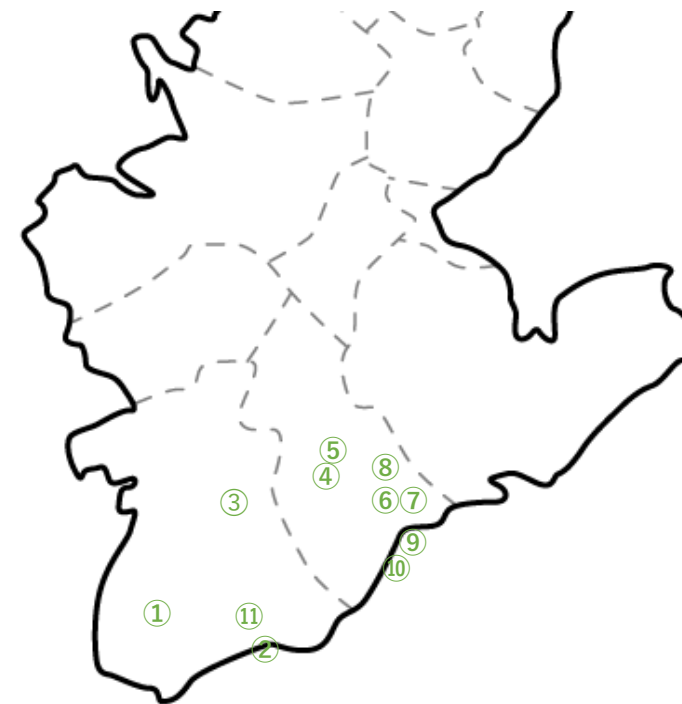
※戦跡によりバスの進入ができない箇所もございます。
※施設のご利用は各所へ直接お問合せください。



⑪沖縄平和祈念公園（摩文仁の丘）

世界の恒久平和を祈念し、情報発信機能を併せ持つ公園として整備された。
平和の礎、国立沖縄戦戦没者墓苑などがある。

南部戦跡 マップ



⑧イリュージガマ

日本軍歩兵第89連隊第5中隊の本部として利用されていた。
旧具志頭村役場の書類を保管していた。
※別途 入壕体験可



⑨ぐしちゃん浜

1945年3月下旬、陽動作戦により攻撃が開始された場所。地元の人が訪れる浜辺の岩壁には突き刺さった銃弾が残る。



⑩弾薬処理場跡

戦後、未使用の弾薬を処理した場所。弾薬が周辺の海に流れ、海水が硫黄で黄色に染まった。現在は、草木に覆われている。



体験学習

沖縄在住者との対話から平和を考える



沖縄県内在住者（ファシリテーター）との対話を通じて、平和について考えるプログラムです。沖縄戦から80年以上が経過し、戦争経験者によるお話を聞くことが困難になりつつあります。戦争の悲惨さや平和の大切さを次の世代へ継承していくことを主体的に考えます。

期 間	通年可能 (年末年始・慰霊の日・旧盆・旧正月を除く。また地域行事が優先されます)
時 間	9:00～20:00 (要相談)
所要時間	60分
会 場	那覇市周辺ホテルなど～南部地域
人 数	要相談
料 金	生徒1人につき2,000円(税別)
備 考	・会場のご手配をお願いいたします。 ・参加者10名程度のグループに1名のファシリテーターが付きます。 (参加人数により要相談となります) ・現地にてファシリテーターの駐車料金が発生する場合は、旅行会社様にてご負担をお願いしております。



■戦争学習・基地学習ではなく「平和学習」

テーマやゴール、答えをひとつに限定することはありません。対話を通じて様々な意見に触れることで、修学旅行生自身が「平和とは何か」について考えるきっかけを提供します。

■沖縄在住者とともに考える意味

原則、修学旅行生10名程度のグループに沖縄在住者が1名入ります。メディアなどで創られた沖縄のイメージに対して、沖縄在住者が修学旅行生に生の声を届けます。



「沖縄で平和学習をするのはなぜ」といった問いや平和学習の感想などをグループごとに共有します。共有した内容は模造紙にまとめ、発表する時間を設けます。ファシリテーターが発表までのサポートを行います。





体験学習

寸劇で学ぶ沖縄戦（戦跡ガイド）



沖縄戦の激戦地・摩文仁の「平和の丘」や「島守の塔」を舞台に、沖縄の活躍するプロの役者が寸劇を交えながら案内する、まったく新しい形の平和学習プログラムです。単なる解説では伝えきれない「声にならない思い」や「人間の感情」を、演技という表現を通してリアルに感じ取ることができます。

期 間	通年可能 (年末年始・慰霊の日・旧盆・旧正月を除く。また地域行事が優先されます)
時 間	9:00～16:00（要相談）
所要時間	30分
体験場所	平和祈念公園内、平和の丘（15分）・島守の塔前（15分）
人 数	30分につき、最大1クラスまで
料 金	1クラスにつき15,000円（税別）
備 考	- 資料館内や平和の礎見学と組み合わせてご利用いただく場合、入替で2クラス／1時間のご案内が可能です。 - 平和祈念資料館見学⇒施設へお問合せください。 - 平和の礎見学⇒ガイドが必要でしたら別途お問合せください。 1時間実施ごとに、30分程インターバルを設けております。

■実施の例 ※2クラス／1時間の場合



●平和の礎 見学ー30分

自由見学またはバスガイドによる案内。
※平和ガイドが必要でしたら別途お問合せください。

※資料館内を見学される場合は施設へ直接お問合せください。

30分後 入替



●寸劇ガイドー30分

平和の丘（15分）
島守の塔（15分）
状況により、寸劇の場所が変更となる場合もございます。

■フィールドの紹介



【平和の丘】

モニュメントの下部は、沖縄の自然洞窟「ガマ」をイメージして設計されており、戦時中に多くの人々が避難し、あるいは命を落とした場所の記憶を象徴しています。



【島守の塔】

県民の命を守ろうと尽力した沖縄県知事・島田勲さん、警察部長・荒井退造さんをはじめ、沖縄戦の中で命を落とした県職員たちを慰霊するために建てられた記念碑です。

体験学習

琉球大学で学ぶ沖縄戦



日本最南端の国立大学で、平和学習に関連するミニ講義の受講やガイドによる大学構内見学を通じて、琉球大学と戦争の歴史を学ぶことができます。キャリア教育、平和学習の一環にご利用下さい。

期 間	土日祝日・旧盆・年末年始・1～2月（入試時期）を除く
時 間	9：30～17：00までの間
所要時間	約2時間30分
体験場所	国立琉球大学 千原キャンパス
人 数	40名（バス1台まで）※40名以下相談可
料 金	生徒1名につき2,000円（税別）
備 考	・1年前から正式予約のみ受付、大学行事が優先のため、確定までお時間をいただく場合がございます。 ・通常のキャンパスツアーは大学生が対応しますが、こちらのプログラムのガイドは、学生以外が対応いたします。

■ポイント1 ミニ講義

琉球大学講師によるミニ講義（50分）を受講します。沖縄の歴史や平和について専門講師が担当するため、深い学びを得られます。

＜講義の例＞

- ・戦争と平和に関する諸問題
- ・沖縄の基地問題
- ・沖縄の公害問題で考える平和学習
- ・平和教育 他

■ポイント2 ガイドによるキャンパスガイド

戦後の復興には「教育」が不可欠だという声が高まる中で、沖縄初の大学として開学した琉球大学。学内には、開学当時の琉球大学を象徴する、貴重なものが残されています。

■ポイント3 琉球大学博物館（風樹館）

沖縄の自然と文化をテーマに約17万点の資料が収蔵されている博物館。その中には、琉球大学が開学した1950年5月22日に時を告げた「開学の鐘」が展示されています。開学の鐘は、米軍が使用したガスボンベを時を告げる鐘として利用していたものです。



オプションとして学生食堂（昼食）の利用ができます（別途費用）
※利用時間や人数に制限があるのでご相談ください。



体験学習

沖縄戦上陸の地から終焉の地まで～平和ガイド同乗プラン～



太平洋戦争末期の沖縄戦を学ぶ1日バスツアー。上陸から激戦、終焉までの戦跡をたどり、地域の歴史と住民の体験にふれることができるプログラムです。各地での説明や参加者との対話を通じて、命の重みと平和の大切さを考える機会を提供します。

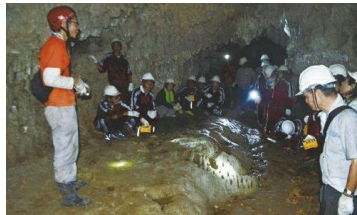
期 間	通年可能 (年末年始・慰霊の日・旧盆・旧正月を除く。また地域行事が優先されます)
時 間	9：00～18：00
所要時間	半日～1日程度
体験場所	読谷村～沖縄県南部
人 数	要相談
料 金	要相談
備 考	・ 荒天時は降車せず、バス車内にて解説いたします。 ・ 小雨程度の場合は、雨具着用の上、実施となります。 ・ 昼食について(1日コースの場合) ①お弁当の場合、昼食前の立ち寄りポイントにて業者から受取等。 ②お食事処をご利用の場合、嘉手納－宜野湾間でご調整ください。

■体験のポイント

太平洋戦争時、激しい地上戦となった沖縄。米軍が上陸した中部の読谷村から沖縄戦終焉の地とされる南部の糸満市摩文仁（平和祈念公園）までガイドとともにバスで巡ります。沖縄戦の流れに沿って各地を解説いたしますので、より理解を深めることができます。



- ①【戦跡巡り】
- 沖縄戦の始まりから終わりまでをたどりながら地域のガイドとともに沖縄戦について学びます。
- (訪れるポイント)
- 渡具知ビーチ / 北飛行場跡地
- 道の駅かでな / 嘉数高台



- ②【清掃体験】
- 八重瀬町・イリユージガマにて、戦跡の清掃活動を行います。戦跡に関わる体験を通じて、沖縄戦の大切な遺跡を未来に残し、沖縄戦の記憶を風化させることなく次の世代へつなぐ意識を育みます。



- ③【ディスカッション】
- 本日学んだ事を通して、「平和について私たちができること」をテーマにディスカッションを行います。戦争の悲惨さや平和の大切さを次の世代へ継承していくことを、参加者が主体的に考えます。



体験学習

上陸地点（読谷村）

戦跡ガイド



読谷村には、沖縄戦の記憶を今に伝える数多くの戦跡があります。戦時中、高射砲陣地として利用された「座喜味城跡」、「北飛行場跡」、戦闘機を隠した「掩体壕」など、当時の面影が今も残されています。村内に点在するこれらの場所を巡り、読谷村の人々がどのような体験をしてきたのかを学び、戦争の悲惨さや平和の尊さを学ぶことができる体験です。ご希望により、歌碑など周辺にある他の戦争関連スポットも併せてご案内することが可能です。

期 間	通年可能 (年末年始・慰霊の日・旧盆・旧正月を除く。また地域行事が優先されます)
時 間	9:00-17:00
所要時間	戦跡1カ所につき30分
体験場所	読谷村内
人 数	要相談
料 金	ガイド料：戦跡1カ所につき、1クラス 5,000円（税別）
備 考	・荒天時は降車せず、バス車内にて解説いたします。 ・小雨程度の場合は、雨具着用の上、実施となります。

■フィールドの紹介

●高射砲陣地・座喜味城跡

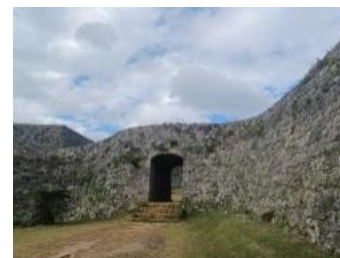
世界遺産として知られている座喜味城跡。沖縄戦では高射砲陣地として日本軍に使用されました。米軍の上陸や空襲に備え、周辺地域の防衛拠点とされた場所です。城壁の上からは読谷の海や村全体を見渡すことができ、戦争の記憶と歴史的建造物としての価値を感じられる場所となっています。

●掩体壕（えんたいごう）

掩体壕は、戦闘機や車両などを空襲から守るために造られたコンクリート製の覆い（シェルター）です。沖縄戦当時、読谷村には日本軍の北飛行場があり、その周辺に複数の掩体壕が築られました。今も一部が残っており、静かな集落の中に、戦争の爪痕がひっそりと残されています。

●北飛行場跡地

北飛行場は、旧日本陸軍が読谷村に建設した軍用飛行場で、沖縄戦では出撃や物資輸送の拠点となりました。戦後は米軍に接收され、読谷補助飛行場として使用されました。現在は滑走路跡の一部が残され、周囲には掩体壕などの遺構も点在しています。戦争の記憶をたどる貴重な場所です。



■周辺の戦跡

- ・「さとうきび畑」の歌碑
- ・「艦砲め喰え一残さー」の歌碑



体験学習

北部戦線（本部町）戦跡ガイド



本部町には、沖縄戦の記憶を今に伝える数多くの戦跡があります。「三中学徒之碑」「八重岳野戦病院」「本部監視哨跡」など、当時の面影が今も残されています。村内に点在するこれらの場所を巡り、戦争の悲惨さや平和の尊さを学ぶことができる体験です。ご希望により、周辺にある他の戦争関連スポットも併せてご案内することが可能です。

期 間	通年可能 (年末年始・慰霊の日・旧盆・旧正月を除く。また地域行事が優先されます)
時 間	9:00-17:00
所要時間	戦跡1ヵ所につき30分
体験場所	本部町内
人 数	要相談
料 金	ガイド料：戦跡1ヵ所につき、1クラス 5,000円（税別）
備 考	・荒天時は降車せず、バス車内にて解説いたします。 ・小雨程度の場合は、雨具着用の上、実施となります。

■フィールドの紹介

●三中学徒之碑

三中学徒隊の碑は、沖縄戦において戦場に動員され、数多くの犠牲を払った三中（沖縄県立第三中学校）の学徒隊を追悼し、平和を願う思いを伝えるための碑です。学徒隊の厳しい状況や犠牲を語り継ぎ、戦争の悲惨さを忘れずに、平和を築くことの重要性を教える役割を担っています。



●本部監視哨跡

本部監視哨は、沖縄戦中に旧日本軍が米軍の動きを監視するため、本部半島の高台に設けた軍事施設です。ここから慶良間諸島方面を望み、米軍上陸の動向をいち早く察知するための重要な拠点でした。現在も観測用の構造物の一部が残されており、戦争当時の緊張と備えの様子を今に伝えています。



■周辺の戦跡

・清末隊（きよすえたい）慰霊碑 ・潜水母艦「迅鯨（じんげい）」の錨